

自由民主・無所属の会

視察報告書



令和1年11月6日～8日実施

□当会派では、視察を実施するにあたり、事前研修、視察研修、事後研修を行うこととし、下記日程で研修を行った。

令和1年10月23日 事前研修
令和1年11月6日～8日 視察研修
令和1年11月29日 事後研修

□事前研修では、視察目的と行程の確認、当市と視察地との比較、視察における視点について確認や意見交換を行った。

1 視察目的の決定と確認について

持続可能な自治体を目指している当市に必要な移住・定住策や、空き家バンクの取組み、企業に対する自治体支援のあり方、道の駅の活用による活性化について視察研修を行うこととした。

当市では、移住定住策については本格的な取組みを行う必要があること、空き家バンクの利活用を増加させる必要があることに加えて、当会派において継続して研修している道の駅の活用を中心に視察することとした。

さらに、前回の視察同様に比較表を作成した上で視察に臨むこととした。

2 行程

11月6日(水)	市役所出発 06:50 自家用 ～ 花巻FDA352～名古屋小牧空港着 ～FDA345 ～高知空港～空港昼食～レンタカー移動～新宮IC下車 ①道の駅 霧の森 ～丸亀市泊18:00着
11月7日(木)	9:00ホテル発 ②三豊市役所 昼食 ③道の駅「たからだの里さいた」視察 琴平町泊 ホテル着 18:00着
11月8日(金)	8:30ホテル発 ④道の駅 南国 風良里 トイレ兼見学 ⑤乗合タクシー見学 高知空港～名古屋小牧空港着～花巻着～市役所着17:30

視察先と当市の比較

(事前研修資料)

視察先	大船渡市
①道の駅霧の森 愛媛県四国中央市新宮町馬立4491-1 ○高知自動車道新宮インター下車すぐ ○宿泊施設やレストラン、コテージ、温泉等が併設 ○MTB（マウンテンバイク）などのイベントとして開催 ○地元産の茶葉を利用した商品開発	道の駅　さんりく ○越喜来インター下車すぐ ○レストラン、直売施設 ○宿泊施設やコテージ、公園が車で10分の距離
②香川県三豊市役所 人　口　63,253人　面　積　222.70 k㎡ ・移住定住専用ポータルサイト ・独自の支援金制度あり ・空き家バンク登録100軒 ・民間活力を活かした取組みについて 三豊市では、専門的知見を有する民間出身者に経営を担ってもらうことで、地域資源の潜在的価値の掘り起しや地域の価値向上、人材育成を進めることを目的に、「瀬戸内うどんカンパニー」を設立。	大船渡市 ・移住定住に関するページ ・独自の支援金制度なし ・空き家バンク登録10軒 ・ビジネスコンテスト等による起業への取組みを行っている。 ・さんまグルメを地域資源として掘り起こし
③香川県三豊市 香川県三豊市財田町財田上180-6 ○重点道の駅「道の駅たからだの里さいた」　第三セクター方式 ○移住コンシェルジュによる移住相談総合窓口の設置や観光と合わせた移住体験ツアーの開催、「地域おこし協力隊」と連携した先進移住者との交流会を開催 ○日本酒文化の紹介やうどん打ち体験等によるインバウンド観光の促進○地産地消の推進及び、産直施設の効率的な運営を目指し、道の駅のレストランや、県内ホテルへ農産物を提供	大船渡市 ○重点道の駅なし 第三セクター方式 ○道の駅等での移住相談総合窓口なし。観光物産協会でも移住相談総合窓口なし。 地域協力隊は道の駅への配属はなく、人手不足が続く状態。 ○直売施設による地元産品の販売
④道の駅　南国　風良里 高知県南国市左右山102-1 高知自動車道　南国インター下車 ○農家レストラン「まほろばの里」 ○年間レジ通過30万人(1施設) ○中央奥にトイレが存在し動線が独特 ○JA直売が併設	道の駅　さんりく ○規模があまり大きくない南国風良里との対比や地産地消の取組みを意識し見学 ○年間レジ通過15万人 ○直売所
⑤高知空港 ○乗合タクシーを実施している ○自転車の組み立てや解体が出来るサイクルステーション ○避難表示	○今後の公共交通のあり方を検討。 ○レンタルサイクルは当市でも実施。

視察報告

①道の駅 霧の森

人口約1,400人しかいない旧新宮町。大福だけで年間3億の売り上げで20万人が訪れる黒字経営の道の駅



高知自動車道新宮インターを下車し、約2,3分の位置に道の駅霧の森は立地し、当市の道の駅と類似。高松や高知市から高速で1時間の距離にあるが、霧が深く、山間部に整備されている。独特な事業を行っているのが特徴。駐車場から(148台)右写真のように橋を必ず通るように動線が設計されている。宿泊やレストランなどの複合施設。



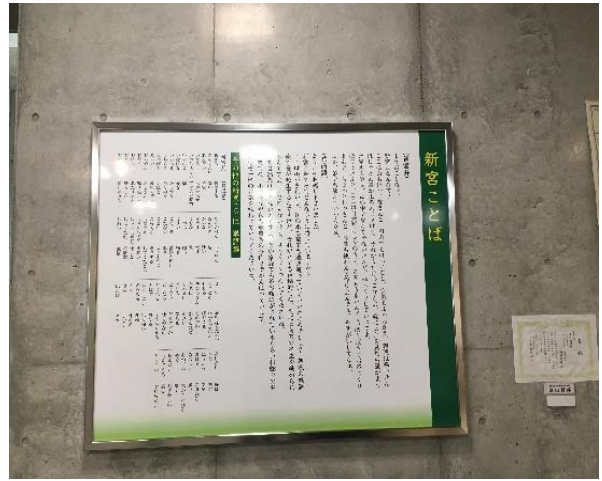
施設が一つ一つ独立していることから、敷地に高低差があるものの来客者の回遊性を増し、楽しめるように設計されている。実際に、来場者はほとんどの施設を訪れていると感じた。

むらおこしの...株式会社やまびこ

・道の駅の運営は、20年を迎える株式会社やまびこ。
愛媛県新宮村(現・四国中央市新宮町)の村おこしの担い手として平成10(1998)年に設立された第3セクターで、特産の新宮茶の価値創造による村おこしに取り組んでいる。
・特産の新宮茶を使って数々のスイーツを生み出す傍ら、大規模レジャー施設「霧の森・霧の高原」を運営し、地元の無農薬抹茶を贅沢に使った「霧の森大福」は、お取り寄せが倍率90倍の抽選となる全国区の人気商品となっている。
・村おこしの稀有な成功事例として全国的に有名であり、新宮茶の価値向上に取り組んで地域住民の笑顔の輪を大きく広げ、地域活性化のモデルとして、新宮から全国に発信している。



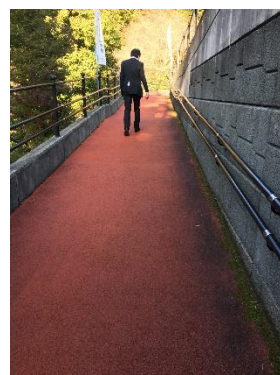
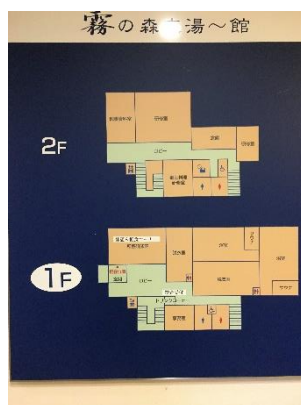
施設内にストーリーが存在している



- ・地域で収穫したお茶を提供するカフェへ向かう途中には地元の方言を表す展示。
- ・新宮の貴重な抹茶のみを原料とするため年間を通しての生産量が決まっており、現在製造が追いつかない状況と伺った。



- ・カフェへ向かう回廊は、パネルによる展示でコストを要していないが、期待感を沸き立たせるづくり。
- ・カフェは夏場で、1日700名が訪れると伺った。
- ・観光施設でありながら自社の生産設備・菓子工房をもっているのが特徴。



- ・分かりやすい表示。トイレはもちろん開き戸。スロープも高齢者に優しい弾力ある素材。このような気配りが心地よい。



○周辺一帯が道の駅という発想

霧の森菓子工房
霧の森レストラン
霧の森コテージ
霧の森交湯～館
霧の森ふれあい館
街道茶店
霧の森イベント広場
霧の森青空市かほり
川遊び

②三豊市

(ア)移住・定住策について



志田代表から視察対応や東日本大震災の支援に対する御礼を述べた後、石原一也政策部地域戦略課長、同課長補佐の伊藤睦子氏、林和樹氏より説明を受ける。

移住定住関連補助金メニューの比較

三豊市	大船渡市
若者定住促進補助金 100万円	なし
移住促進・新婚世帯家賃補助金 月額上限2万円を最大2年間	なし
移住促進・家賃等補助金 月額上限2万円を最大2年間 初期費用6万円	なし
空き家バンクリフォーム補助金 最高100万円	空き家バンクリフォーム補助金 最高25万円
空き家バンク住宅・家賃等補助金 月額上限1万円を最大2年間 初期費用3万円	なし
東京圏UJIターン移住支援事業補助金 地方創生事業	東京圏UJIターン移住支援事業補助金 地方創生事業

三豊市定住促進支援策①～③について

定住促進のための支援策①

◆ 三豊市若者定住促進補助金

40歳未満の者(市内外問わない)市内業者で建築・売買・仲介
⇒対象経費1500万円以上⇒100万円補助

H29実績	H30実績	R1実績(10月現在)
91件	117件	100件(未確定)
87,670千円	107,800千円	98,970千円(未確定)

定住促進のための支援策②

◆ 移住促進・新婚世帯等家賃補助金

夫婦ともに40歳未満で市外で1年以上居住し、
三豊市に転入前に結婚し、婚姻日から1年以内

↓

賃借料1/2 月額上限2万円を最大2年間

R1実績(11月現在)
2件(未確定)
140千円(未確定)

定住促進のための支援策③

◆ 移住促進・家賃等補助金

県外で3年以上居住していた方が賃貸住宅を借りて市内に住む場合

↓

賃借料の1/2 月額上限2万円を最大2年間

初期費用(礼金・仲介手数料など)

1回限り6万円まで(うち、香川県費補助1/2)

H29実績	H30実績	R1実績(10月現在)
30件	50件	52件(未確定)
5,240千円	8,818千円	8,764千円(未確定)

◆ 三豊空き家バンク制度について

現状

- ・所有者の高齢化
- ・相続した家の管理ができない
- ・空き家を取り壊すと土地の固定資産税軽減がなくなる

香川県空き家率 18.1% （全国8位 全国平均13.6%）

⇒ 増加する空き家の受け皿となる三豊市空き家バンク
約5.5軒に1軒が「空き家」

平成30年住宅・土地統計調査(総務省) より



○三豊市の空き屋バンクの流れ

- ①三豊市役所へ連絡
- ②市役所職員による物件確認(外観のみ)
- ③宅建業者の選定
- ④物件所有者・宅建業者市役所職員の3者による物件確認(室内)
- ⑤物件登録申請書の提出
- ⑥審査・登録
- ⑦インターネットでの情報発信開始



○空き屋バンクの実績

登録物件数	… 422件(累計)
利用申出者数	…1,796名

空き家バンクを介した契約者数
319組 (市内在住者…160組)
(県内在住者… 72組)
(県外在住者… 87組)
令和元年10月29日現在



今年度は29件。
これまで、729名が空家バンクを利用し居住！
年少者(15歳以下)は182名!!

定住促進のための支援策④

◆ 空き家バンクリフォーム補助について

空き家バンクで取得した住宅(売買のみ)
・市内事業者にてリフォーム



経費2分の1補助 最高100万
(うち、香川県費補助1/2 50万円)

H29実績	H30実績	R1実績(10月現在)
13件	23件	6件(未確定)
11,535千円	22,417千円	5,570千円(未確定)

※R1年度以前は、賃貸契約でも貸主・借主双方がリフォーム補助を使用できていたが、空き家バンク家賃補助の創設にともない、購入者のみに限定。



定住促進のための支援策⑤

空き家バンク住宅・家賃等補助金について

空き家バンクで賃貸した戸建て住宅



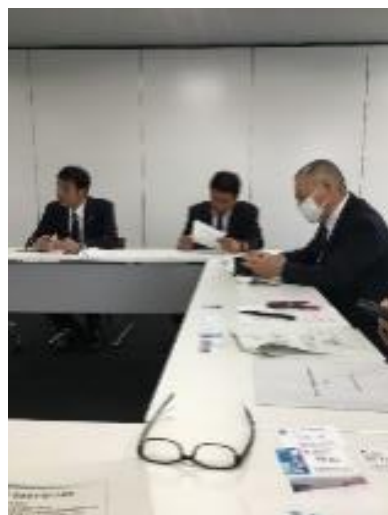
賃借料の1/2 月額上限1万円を最大2年間
初期費用(礼金・仲介手数料)
1回限り3万円まで

R1実績(10月現在)

4件(未確定)

450千円(未確定)

主な質疑



Q なぜ若者の定住にフォーカスし補助金を創設したのか？

A 当市では、平成18年に7町が対等合併したものの、人口の減少は続いている。
若者の定住は容易でないが、当市を知っていただき転入から永住につなげたい。若者が移住していただければ、学校、消費、雇用など様々に波及するものと考えている。「若者定住促進補助金」は当市の目玉政策でもあり、移住や定住策は一丁目一番地と考えている。

Q 40歳未満の者ということだが、市内、市外の割合は？

A 市外が23%、市内が77%である。

Q 一般的に市外からの定住について補助を行う自治体が多いが、市内への補助に対する庁内議論等はどのようなものがあったのか？

A 確かに、市内の住宅建設補助については議論があったところ。
一方で、市内業者に建築等を限っていることや、地域経済へ寄与していることから一定の理解は得られているものと思う。

Q 100万円の補助額の根拠はあるのか？

A 1500万以上の対象経費で100万円であるが、固定資産で概ね13年で均衡できるものと推察している。

Q 地域戦略課とは、どのような目的のセクションか

A 企画であるが、総合計画や統計、東京大学とのサテライト等を行っている。余談だが、当市は公共交通が弱いと認識をしている。

Q 空き屋バンクの課題は何か

A 空き家バンクだけではないが、新しい事業を中心に事業効果の検証が引き続き必要である。
当市の重要政策である人口目標達成に向け、さらなる移住定住支援の強化・拡大が必要と考えている。



Q 賃貸と住宅取得にたいする補助はどのような考えで行っているのか

A 当市は、平成18年に合併したが、未だ三豊市名を間違える方も多く、知名度が低い。
したがって、先ず知ってもらう。住んでもらう。定住につなげるという2段階で事業を進めている。

Q 定住には、仕事が必要であると考え、空き家バンクと雇用対策の連携は

A 雇用政策とは直接結びついていないかもしれないが、当市は山手側は就農対策、海手は就漁対策がさらに必要。
当市の有効求人倍率は1.86で、マッチングが課題となっている。
香川大学等があるが、市外へ出ていってしまうために、産業政策課ではAIへの取組みを東京大学等と進めている。

Q 岩手県は、県下13市であるが、香川県は市町村の自治体数が多い。住宅政策の競争が激しいのではないか

A 県下でも早期に住宅政策に取り組み、今では類似する政策に取り組んでいる自治体も増えてきた。三豊のPRを強めるとともに広域的な視点も必要と考えている。

Q 空き家が5.5軒に1軒と多く感じるが、理由は

A 人口の減少もあるが、本州と橋でつながったのがきっかけの一つと考えている。

Q 定住を増やすために市のPRをどのように考えているのか

A 現在の状況は、三豊をピンポイントで選んでいるわけではないと考えている。父母ガ浜もそうだが、当市を訪れた方やSNSでたどりついた方へのPRを積極的に行っていきたい。

Q 流通できない空き家が相談された場合の対応は

A 特定空家については、老朽危険空家除却支援事業補助金などの制度を用意しているが、今後も様々に考える必要がある。

Q 空き家の登録件数が多いが理由は

A ホームページには宅建業者や空き家の具体的番地は記載をしていないことで市が仲介にしっかりと入ることが出来ている。

事前質問に対する回答

視察を前に三豊市にペーパーで質問を送付したもの

○移住定住サポート事業について

Q一連の取組みを始めた背景や経緯について

A 本市では、合併当初から人口減少対策に重点をおいており、合併後最初の三豊市新総合計画では、重点プロジェクトの一つとして「住んでみるなら三豊が一番!」を掲げ、2015年に若者定住促進・地域活性化補助金事業を始めとした定住促進策を開始、2016年に空き家バンクを創設、移住ポータルサイトみとよ暮らし手帳開設を皮切りに、様々な施策を展開してきた。第二次総合計画でも引き続き、「人と自然が守られる定住のまち」の基本目標のもと、重点プロジェクト「まちに人を呼び込む」施策に取り組んでいる。

Q一連の取組みの目的や意図について

A 2006年の合併から10年間で、約7%の人口が減少している中で、人口目標達成に向けて、移住定住促進事業は当市にとって取り組むべき最重要課題の一つであると考えている。

Q 支援制度の内容や財源について

A 移住定住促進事業のうち、香川県から補助金を受けている事業(移住促進家賃等補助、空き家バンクリフォーム補助)もあるが、その他は、一般財源でまかなっている。

Q 空き家バンクで100件に迫る登録物件を抱えるに至った要因について

A 全国平均を上回り、都道府県でも上位に位置する空き屋率の高さがあったと思われる。その中で、本市は県内でも空き屋バンク制度や空き家を活用した際の補助事業、宅建業者等との連携協力等に、早期から重点的に取り組んだ結果、市民または市外の空き家所有者から、多くの空き屋バンク物件登録申請をいただける信頼を得られたのではないかと考える。

Q 取組みの成果や今後の課題について

A 取組みの成果として、空き屋バンクについては、移住定住者の獲得、空き家の利活用だけでなく、カフェやゲストハウスなどの開業にもつながり、地域活性化やにぎわいづくりにも効果を上げている。その他、特に若者定住促進事業において、住宅取得・購入を増やすということで、人口流出の可能性も低く、確実に定住者を獲得できていると言える。あわせて、40歳未満という条件が、多くの子育て世帯を呼び込み、年少人口の獲得にもつながっている。なおかつ、空き家リフォーム事業も含め、市内業者を活用することで、地域経済の活性化も図られている。

今後の課題としては、合併算定替え等も踏まえ、厳しい財源の中、特に支出に対する費用対効果などといった詳細な効果検証を、引き続き行い、最大の効果を生みたい。

②三豊市

(イ)地域商社事業の設立概要について



政策部 産業政策課 三好智支 課長から説明を受ける。

○地域商社設立の目的

- ・三豊市が自立し、継続して稼ぐ力を持った仕組みを作るため
 - ・市内には良質な地域資源、積極的に地域活性に取り組む事業者が多数存在するが、それらを活かした経済活動に結びつけられていない
- ⇒三豊市で取り組む地域商社事業ではハコモノを作り、一人のリーダーが牽引するのではなく…
- ⇒**地域資源を活かし、それぞれの事業者が活躍する継続出来る「稼ぐ仕組み」の構築を目指すもの**

○三豊市の課題

商品

- ・農産物は小ロット多品種で、これといった目立った産品は無い。
- ・新商品開発は頻繁に行われているが、売れていない。
- ・安価で販売されている。
- ・知名度が低く、目的地にされていない。

観光

- ・誘客出来るランドマークが無い。
- ・マーケティング、プロモーションも出来ていない。

人

- ・地域活性化に取り組む若手は多くいるが、稼ぐ仕組みになっていない。
- ・過去から比較的豊かなエリアであったため、危機感は薄い。
- ・合併前の旧町意識が強く残っており、市として纏まりきれていない。



当市でも同様の課題。三豊市では





三豊ブランド 瀬戸内うどんブランド」という自分たちのエリアではなく、広域で捉え、うどんに選択と集中を行う戦略を採用する。



すでに認知度の高い『さぬきうどん』と『瀬戸内海』を軸にした、ビジネスの掘り下げにより、製品のブランド化、ツーリズム、海外展開が可能ではないかと仮説を立てる。



可能性検証(丸の内朝大学)⇒東京のビジネスマンとのコラボ
さぬきうどん × 瀬戸内海 × ツーリズム の検証

『さぬきうどん』『瀬戸内海』『ツーリズム』を掛け合わせた顧客満足度の高い高額商品の提供が可能であることを確認出来た。



この検証で、『さぬきうどん』と『瀬戸内海』が三豊市の魅力発信の軸になることが確認する。

- ・今までの戦略→全てのものをPRする
- ・これからの戦略→地域の軸となるものを磨き上げ、情報発信しそれに地域の潜在付加価値の高い商材を掛け合わせることで地域の価値を総合的にあげていくことへ発想の転換を行う。



設立する地域商社は『瀬戸内うどんカンパニー』とし、『さぬきうどん』と『瀬戸内海』を軸に、総合的に三豊市の価値の向上を目指す。



地域商社代表者(CUO)の全国公募

下記①～⑤のいずれかに当てはまり、かつ民間企業(自営業含む)などで5年以上の経験(営業、企画、マーチャンダイジング、仕入れ)を有する方。

①地域の魅力を客観的に把握でき、社会が求めている価値に結びつけることができる人材

②組織を運営するマネジメント能力のある人材

③他業種との新しい事業構築に挑戦できる人材

④PDCAサイクルに基づき、計画から課題解決を進めることができる人材

⑤会社設立準備から一緒に奔走できる情熱のある人材

■募集資格

28歳以上～50歳まで

■業務委託費

1000万円／年(基本活動経費含む業務委託契約)



持続可能な社会づくりに貢献する地域商社
瀬戸内うどんカンパニー設立を目指すことに。
1地域外への価値の発信
2地域内への交流の創出を目指している。

主な質疑

Q かんばにーに対する市からの出資は

A 市からの出資はないが、年間委託費として1000万を支出している。

Q 全体事業費とその財源は

A 全体では2000万円の委託費である。今年度は、経営の基盤確立のために、ソフト系の事業として、事業シナジーの創出や事業拡張に向けて取組んでいる。交付金が半額である。

以前存在した蔵元など3社で指定管理を受けている。

Q 委託費を除いた収益性は

A 採算性のために事業を精査するとともに指定管理業務を受託している。また、去年は、キットとして2000セット程の販売も行っている。

Q 地域商社を設立してのメリットは

A 元々の目的と異なるかもしれないが、域外からのつながりが広がり、カフェ等の設立や観光客が増加している。2016年と2018年を比較した場合に、23%増の167万人となっている。



危機管理センター視察



三豊市では危機管理センターを整備し(表紙)有事の対応を行う。危機管理課を設け横断的な対策を講じる。



重点道の駅「たからだの里さいた」

地方移住促進型



移住コンシェルジュによる移住相談総合窓口の設置や観光と合わせた移住体験ツアーの開催、「地域おこし協力隊」と連携した先進移住者との交流会を開催○日本酒文化の紹介やうどん打ち体験等によるインバウンド観光の促進している施設

■移住コンシェルジュとして活躍できる人材を都心部から採用。■地元農業団体の指導による農業体験や、地域おこし協力隊員と連携をとり、先進移住者との交流会を行い、定住を支援。■地産地消の推進及び、産直施設の効率的な運営を目指し、道の駅のレストランや、県内ホテルへ農産物を提供し、農業者の意欲を向上させる。■外国人観光客に対するサービスの向上及び日本文化のPRを行っている。

道の駅南国「ふらり」



施設真ん中に位置するシンボルツリー。このシンボルツリーを左右に直売所やレストランが並ぶ。トイレは一番奥にあるため、必ず真ん中を通る動線となっている。

・三か国語表示の写真付き案内版・大型車は道を挟んでの駐車場。トイレも整備している。
・現在地も含めた観光案内版。写真も大きく分かりやすい。



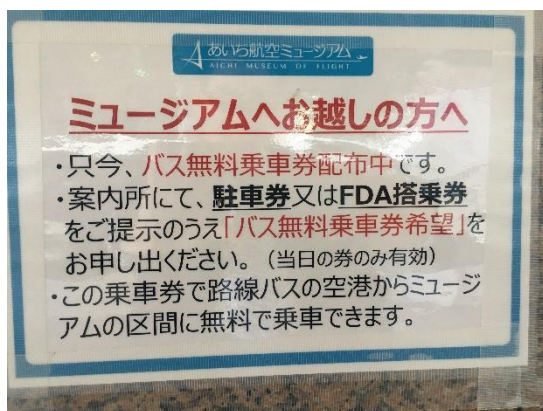
案内事務所から説明をいただいた事項

- Q 農家レストランまほろば畑の来客状況は
A 一日三回の実施だが、おかげ様で超満室です。
Q 年間どの位の来客があるのか
A レジ通過で約33万人である。インターから近いことが理由だと思う。
Q モーニングやランチも営業しているが、来場者の内訳は
A モーニングは8割が地元。ランチは半々。JA直売所は8割が地元である。

その他の視察写真



当会派恒例の視察前に行う朝ミーティング。一日の行程と目的を確認。



左、三豊市の担当課の分かりやすい表示。スポーツ、学校等表示されている。右は、名古屋空港での無料バス案内。



高知空港での避難表示。階段の表示は分かりやすい。



高知空港にある自転車を組み立てるスペース。右は、乗合タクシーの様子。事前予約は必要なものの結構な方が利用をされていた。目的地が駅までと明確なためではないか。